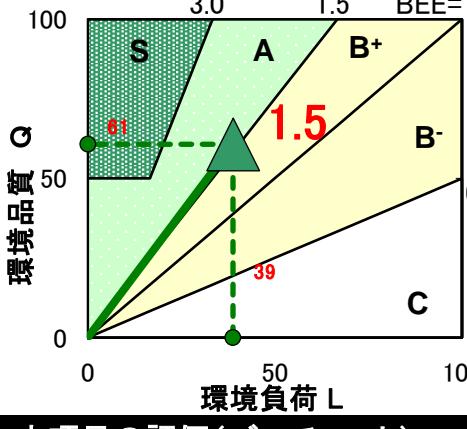
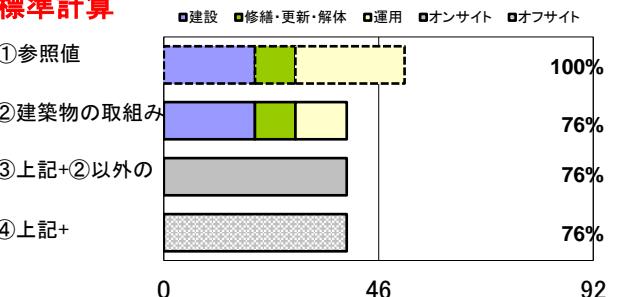
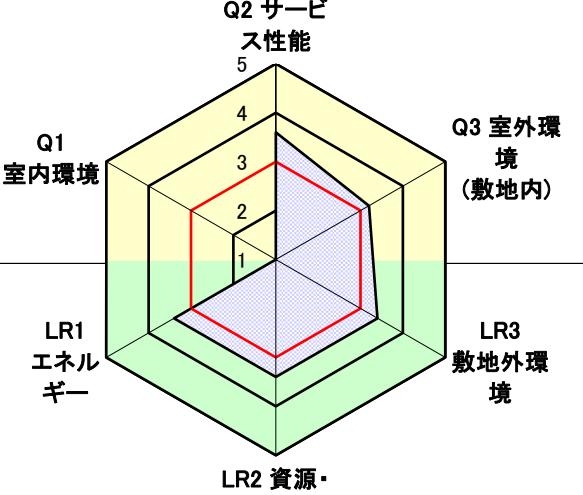


# CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版\_追補版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v2.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	鶴ヶ島市高倉プロジェクト	階数	地上3F
建設地	埼玉県鶴ヶ島市	構造	S造
用途地域	用途地域の指定のない区域、防火	平均居住人員	50 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年2月 予定	評価の実施日	2024年12月25日
敷地面積	12,380 m <sup>2</sup>	作成者	宮渕 智康
建築面積	5,703 m <sup>2</sup>	確認日	2025年1月22日
延床面積	15,372 m <sup>2</sup>	確認者	堀内 智文

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.5 ★★★★☆</p>  <p>標準計算</p>  <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安を示したもの</p>	 <p>Q2 サービス性能</p> 	<p>Q1 室内環境</p> <p>Q2 サービス性能</p> <p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)	Q のスコア= 3.4		
<b>Q 環境品質</b>	<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b>
	Q1のスコア= 0.0	Q2のスコア= 3.6	Q3のスコア= 3.2
N.A. N.A. N.A. N.A.	音環境 溫熱環境 光・視環境 空気質環境	機能性 耐用性 対応性	生物環境 まちなみ 地域性・
<b>LR 環境負荷低減性</b>	<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>
	LR1のスコア= 3.4	LR2のスコア= 3.4	LR3のスコア= 3.4
N.A.	建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的	水資源 非再生材料の 汚染物質	地球温暖化 地域環境 周辺環境

3 設計上の配慮事項			
<b>総合</b>		<b>その他</b>	
ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。		特になし。	
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b>	
評価対象外	階高:3.9m以上。[壁長さ比率=0.08] < 0.1。床荷重: 14700N/m <sup>2</sup> ケーブルラック、配管内配線により構造材・仕上材を痛めずに更新・修繕ができる。	植栽により、良好な景観を形成している。	
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>	
BEIm = 0.47	節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。 LGSを使用している。 ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を使用している。	燃焼機器を使用していない。 光害対策ガイドラインの項目の過半を満たす。また、広告物照明は行っていない。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフケイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版 鶴ヶ島市高倉プロジェクト		■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3)						
スコアシート 実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	全体
配慮項目								
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境					-	-	-	-
1 音環境				-	-	-	-	-
1.1 室内騒音レベル	-			-	-	-	-	-
1.2 遮音				-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能	-			-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能	-			-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-			-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-			-	-	-	-	-
1.3 吸音	-			-	-	-	-	-
2 温熱環境				-	-	-	-	-
2.1 室温制御				-	-	-	-	-
1 室温	-			-	-	-	-	-
2 外皮性能	-			-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性	-			-	-	-	-	-
2.2 湿度制御	-			-	-	-	-	-
2.3 空調方式	-			-	-	-	-	-
3 光・視環境				-	-	-	-	-
3.1 昼光利用				-	-	-	-	-
1 昼光率	-			-	-	-	-	-
2 方位別開口	-			-	-	-	-	-
3 昼光利用設備	-			-	-	-	-	-
3.2 グレア対策				-	-	-	-	-
1 昼光制御	-			-	-	-	-	-
3.3 照度	-			-	-	-	-	-
3.4 照明制御	-			-	-	-	-	-
4 空気質環境				-	-	-	-	-
4.1 発生源対策				-	-	-	-	-
1 化学汚染物質	-			-	-	-	-	-
4.2 換気				-	-	-	-	-
1 換気量	-			-	-	-	-	-
2 自然換気性能	-			-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮	-			-	-	-	-	-
4.3 運用管理				-	-	-	-	-
1 CO <sub>2</sub> の監視	-			-	-	-	-	-
2 喫煙の制御	-			-	-	-	-	-
Q2 サービス性能				-	0.43	-	-	3.6
1 機能性				-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-	-
1 広さ・収納性	-			-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応	-			-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画	-			-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-	-
1 広さ感・景観	-			-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース	-			-	-	-	-	-
3 内装計画	-			-	-	-	-	-
1.3 維持管理				-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計	-			-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保	-			-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性				2.9	0.50	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-			3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制震・制振性能	-			3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30	-	-	-
1 車体材料の耐用年数	-			3.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		外壁仕上げ材: ALC t=100→50年		5.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	-			1.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-			3.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	-			3.0	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔	-			3.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性				2.6	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備	-			3.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備	-			2.0	0.20	-	-	-
3 電気設備	-			3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法	-			3.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備	-			2.0	0.20	-	-	-

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり	階高:3.9m以上。 [壁長さ比率=0.08] <0.1 床荷重: 14700N/m <sup>2</sup>	5.0 5.0 5.0 5.0 3.4 3.0 3.0 5.0 5.0 3.0 3.0	0.30 0.60 0.40 0.30 0.40 0.20 0.20 0.10 0.10 0.20 0.20	- - - - - - - - - - -	- - - - - - - - - - -	4.3
	3.2 荷重のゆとり						
	3.3 設備の更新性						
	1 空調配管の更新性	-	3.0				
	2 給排水管の更新性	-	3.0				
	3 電気配線の更新性	ケーブルラックにより構造材・仕上材を痛めずに更新・修繕ができる。	5.0	0.10			
	4 通信配線の更新性	ケーブルラック、配管内配線により構造材・仕上材を痛めずに更新・修繕ができる。	5.0	0.10			
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20			
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20			
	Q3 室外環境(敷地内)		-	0.57	-	-	3.2
1 生物環境の保全と創出		-	3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	植栽により、良好な景観を形成している。	-	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮		-	2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	-	2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	-	-	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制	-	-	-	-	-	-	
2 自然エネルギー利用	-	-	3.0	0.13	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	BEIm = 0.47	-	4.1	0.63	-	-	4.1
集合住宅以外の評価	-	-	4.1	1.00	-	-	
集合住宅の評価	-	-	-	-	-	-	
4 効率的運用		-	2.0	0.25	-	-	2.0
集合住宅以外の評価		-	2.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	-	-	3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	-	-	1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価		-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	-	3.4
1 水資源保護		-	3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水	節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。	-	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		-	3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	-	-	3.0	0.70	-	-	
2 雜排水等利用システム導入の有無	-	-	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		-	3.3	0.60	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減	-	-	2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	-	3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	床: タイルカーペット、断熱材	-	4.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGSを使用している。	-	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		-	3.6	0.20	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用	化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含有しない建材種別が1つ以上～3つ以下ある。	-	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		-	3.5	0.70	-	-	
1 消火剤	-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を使用している。	-	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒	-	-	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率76%。	-	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮		-	3.3	0.33	-	-	3.3
2.1 大気汚染防止	燃焼機器を使用していない。	-	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	-	-	3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		-	2.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	-	-	3.0	0.25	-	-	
2 污水処理負荷抑制	-	-	3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	-	-	2.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	-	-	1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		-	3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		-	3.0	0.40	-	-	
1 騒音	-	-	3.0	1.00	-	-	
2 振動	-	-	-	-	-	-	
3 悪臭	-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		-	3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制	-	-	3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	
3 曜日阻害の抑制	-	-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		-	4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの項目の過半を満たす。また、広告物照明は行っていない。	-	5.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	8.0	-	-	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	4.0	-	2.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0	-	1.0	-	2.0	-	-	1.0	-	2.0	-	-	-	-	-
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雜排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 転体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	8.0	-	1.0	-	-	3.0	2.0	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	1.0	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	-	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

**主な指標****Q1 室内環境**

## 2.1.3 外皮性能

窓システムSC - 窓の日射熱取得率( $\eta$ ) -U値(W/m<sup>2</sup>K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 -住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 -  $\eta_{AC}$  -  $\eta_{AH}$  -

## 3.1.1 昼光率

## 4.2.2 自然換気性能

**Q2 サービス性能**

## 1.1.1 広さ・収納性

執務スペース .0m<sup>2</sup> /人 病床 .0m<sup>2</sup> /床 シングル .0m<sup>2</sup> ツイン .0m<sup>2</sup>

## 1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 0.0 VA/m<sup>2</sup>

## 1.2.1 広さ感・景観

天井高 0 m

## 1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%

## 2.2.1 転体材料の耐用年数

想定耐用年数 0 年

## 2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 50 年

## 2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

## 2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

## 3.1.1 階高のゆとり

階高 6.03 m

## 3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 8.0%

## 3.2 荷重のゆとり

床荷重 14700 N/m<sup>2</sup>**Q3 室外環境(敷地内)**

## 1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 46% 建物緑化指数 7%

## 3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 54% 水平投影面積率 3% 地表面対策面積率 26% 蓋装面積率 32%

**LR1 エネルギー**

## 1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI<sub>m</sub> 対象外 断熱等性能等級 対象外 相当

## 2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年 m<sup>2</sup> 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%

## 3 設備システムの高効率化

通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%

## 非住宅部分

太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW

## 集合住宅の評価

BEI/BEIm 再エネ有 0.47 無 0.47 オフサブ再エネ有 0.30 -

一次エネ削減率 再エネ有 無 -

**LR2 資源・マテリアル**

## 1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 0.0%

## 2.4 転体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目 タイルカーペット, |エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -

## 2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 0.0%

## 3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

## 3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 3

## 3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

**LR3 敷地外環境**

## 2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 158% 隣棟間隔指標Rw 0.67

地表面対策面積率 31.0% 屋根表面対策面積率 0.0% 外壁表面対策面積率 4.0%

見付面積S<sub>b</sub> 3,362m<sup>2</sup> 卓越風向と直交する最大敷地幅W<sub>s</sub> 87.6 m 基準高さH<sub>b</sub> 24.22 m緑地 3,113m<sup>2</sup> 水面 m<sup>2</sup> 保水性対策面 m<sup>2</sup> 高反射対策面 m<sup>2</sup> 再帰性反射対策面 m<sup>2</sup>